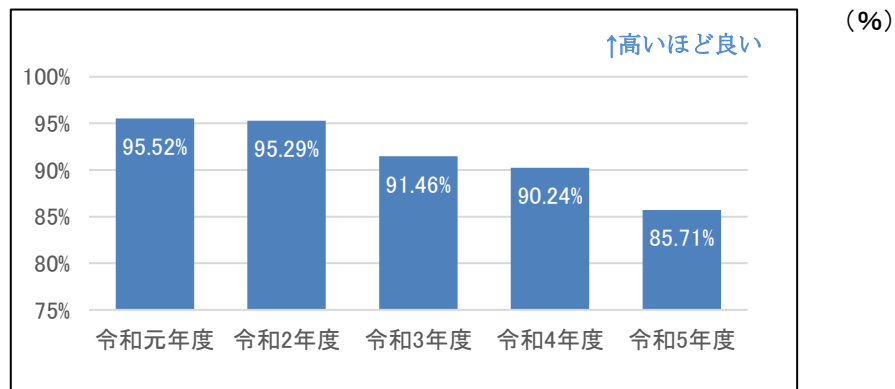


9 脳梗塞の早期リハビリテーション実施率

○項目の解説

早期のリハビリテーションは運動機能の回復を促進することが明らかにされており、脳梗塞の診療の指針を示す診療ガイドラインでも推奨されています。脳梗塞患者の社会的復帰のためには、脳梗塞発症後速やかにリハビリテーションを行うことが重要です。早期のリハビリテーション開始が入院期間の短縮や生活の質の改善につながる可能性があることから、脳梗塞患者への適切な治療の一つとして評価されます。

○当院の実績



○当院の自己点検評価

当院は、600床以上を有する3次救急に対応する急性期病院です。一次脳卒中コア施設に認定されており、急性期脳梗塞の受診患者数が増えていることから、様々な合併症を抱えた複雑な症例が多い状況です。

この状況に対応すべく、リハビリテーション科を交えた合同カンファランスを実施し、脳梗塞クリニカルパスを用いて、急性期の治療と同時並行で早期リハビリテーションが導入できるように工夫しています。

平成26年度から早期リハビリテーション実施率が徐々に向上していましたが、令和5年度は85.7%に低下しました。増加している患者数に十分な対応が追いついていない可能性があり、来年度以降改善する予定です。

○定義

DPC データを元に算出した、緊急入院した脳梗塞症例の早期リハビリテーション実施率(%)です。

3日以内退院と転帰が死亡である場合は除きます。再梗塞を含みます。

○算式

分子: 入院4日以内にリハビリテーションが開始された患者数

分母: 最も医療資源を投入した病名が脳梗塞の患者で、発症から3日以内、且つ緊急入院した患者数。院内発症した脳梗塞症例は含まない。